

# 当別町地域公共交通活性化協議会

平成20年2月 1日設置  
平成20年3月26日連携計画策定  
平成21年3月 6日連携計画変更



## 概要

当別町は、地形が南北に長いほか、東西に市街地が二極化しており、また、札幌市や江別市といった都市に隣接していることなどによって、自動車への依存が非常に高い地域であることから、コミュニティバス(当別ふれあいバス)の運行、設備の充実、公共交通利用促進策の実施等により、町内交通モードを自動車から公共交通への転換を図る。

### 「当別ふれあいバス」の運行(20年度～)

- 当別町、北海道医療大学、北洋交通株式会社、医療法人社団とうべつ整形外科の4者による費用負担により、コミュニティバス「当別ふれあいバス」の運行を継続するほか、利用者少数路線の経費削減・サービス充実を目的とした、デマンドシステム導入の実証運行を21年度に実施。
- 公共交通空白地帯解消に向け、デマンドシステムによる「当別ふれあいバス」の運行を検討。
- JRあいの里公園駅からJR最終便に接続した「深夜バス」の運行を実施。
- バスを利用して図書や農産物・郵便物を輸送する「物流システム」導入の実証実験を実施。

### 設備の充実(20年度～)

- バス停留所のデザインの改善や待合所の設置を進める。
- ノンステップバスの導入を検討。
- JR石狩当別駅及び石狩太美駅等において、バス・JRの運行状況等を表示する情報提供システムを整備。
- バス車内に音声映像案内システムを導入。

### 公共交通の利用促進策の実施(20年度～)

- 住民等に対し、利用促進パンフレットやニュースレターの配布、講演会やセミナーの実施、定期的なアンケートの実施等。
- 小中学生に対し、「かしこいクルマの使い方」や「てんぷら油でバスが走る」などの交通教育を実施。
- 使用済みてんぷら油の回収システムを導入し、BDFを製造して、バスの燃料とする。
- ラッピングバスの運行。
- 潜在利用者の発掘や既存利用者の利便性向上を目的に、21年度にHPを開設。



# 当別町地域公共交通活性化協議会 計画事業の取組状況

主な事業内容	協議会開催状況	5回開催	分科会等開催状況	2回開催	回数は、平成21年度末までの開催予定
--------	---------	------	----------	------	--------------------

<b>コミュニティバス実証運行</b> 当別ふれあいバスを運行し、潜在する需要を喚起し、公共交通空白地域だった路線の定着を試行 JRと連結したDRT型の予約制深夜型バス運行 バスによる物流システムを導入し、地域コミュニティを図る <b>設備の充実</b> バス待合所の整備 公共交通情報提供システム用のコンテンツを作成 ノンステップバスを導入し、高齢者の利便性向上を図る 導入したバスに音声案内システムを導入する。	利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供 モビリティマネジメント及び利用促進ツアーを実施 バス祭りを実施し、バスを利用したイベントとし、利用促進を図る ホームページの開設 移動展示会の実施 調査・研究等 OD・アンケート調査の実施 デマンドシステムの調査検討
---	---

<b>実施状況</b> コミュニティバス実証運行 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで運行 当別町全域及び札幌市北区あいの里地区 平日85便、休日31便 企業等による送迎目的の旅客を限定したバス運行と、町が運行する福祉バス及び町が補助をしている路線バスを一元化し運行 週末にJR最終便に合わせて、予約型の深夜バスを接続運行 深夜バスの利用促進事業を12月に実施 10月からバス車内における図書返却サービス実証実験を実施 <b>設備の充実</b> ノンステップバス車両の導入(音声映像案内システム整備付) 待合所整備については、1カ所整備予定	公共交通の利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供 バス祭りを10月4日当別駅にて開催 小中学生向けモビリティマネジメントを3回実施 ニュースレターを第1～6号まで発行 廃食油回収し、バイオディーゼル燃料の利用促進 利用促進バスツアーを実施し、ツアー参加者へアンケート実施 小中学生を限定とした夏期・冬期休暇限定定期の販売 ホームページを年度内に作成予定 小中学生が描いた絵画を2月中旬より移動展示会として150点をバス車内に展示 調査・研究等 OD調査を12月に実施 デマンドシステム導入調査を年度内にまとめる予定 バスマつりアンケート協力者に対する行動変容追跡調査を実施予定
--	--

### 自己評価のポイント

- コミバスについて、循環線を増便、ダイヤ改正による乗り継ぎ時間の改正など改善を行うが大きく効果が出ていない。
- 小中学生向けMMの実施で小中学生の利用が若干増加傾向。
- 利用者数は増加しているが、運行収入は前年比を下回っている。
- 運行経費の削減などで、今後本格運行に向けて協議会で検討する。

### 二次評価のポイント

自己評価のとおり、本格実施に向けた最終年度の取り組みに期待する。